学校番号	４０３

平成 31 年度　公民科

教科	公民	科目	政治経済	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　改訂版　「政治・経済」（第一学習社）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

政治経済は生きた科目です。

政治も経済も人々の営みですから、予想が難しいことや、議論となっている点、矛盾などがあります。その中で、人々がよりよい社会を作るために発見し、あるいは作り上げた原理原則の中でも重要なものが政治経済の教科書で紹介されています。これらを学び、自家薬籠中の物として、よき市民となってほしいと思います。

２　学習の到達目標

・民主主義の本質について理論的・体系的に理解する。
・現代の政治，経済，国際関係などについて客観的に理解するとともに，現実の情勢を主体的に探究する態度を身につける。
・日本国憲法の基本原理，日本の政治機構などについて理解し，現代の政治の諸課題について考察を深める。特に、法の支配の意義について理解を深める。
・現代経済のしくみを基礎的な経済理論の観点から理解するとともに，国民経済の動向および，政府の役割と日本経済が抱える課題などについて考察する。
・国際社会の現状と諸課題について理解し，国際社会に生きる日本の役割について考察します。

以上の理解や考察を踏まえて，良識ある公民としての必要な能力と態度を身につけます。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	政治・経済・国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求する姿勢をもつ。市民として、誠実に政治や社会の問題に関わり、平和で民主的な社会の実現に参加、協力する態度を身につける。	政治・経済・国際関係に関わる諸問題に関わる課題を見出し、理論的・客観的に考察し、公正に判断してその過程や結果を適切に表現している。	政治・経済・国際関係に関わるさまざまな情報を収集し、適切に選択して、効果的に活用する。	政治・経済・国際関係の、基本的な知識を持ち、総合的に理解する。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元	学習内容	単元（題材）の評価規準	主な評価の観点 a	b	c	d	評価方法
1	民主政治の基本原理と日本国憲法	①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と世界の政治体制	・民主政治の本質を把握しながら，政治と私たちとの関わりについて理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査
			・法に関する基本的な見方や考え方を把握しながら，法の意義について理解する。	○	○		○	
			・基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら，人権保障の国際的な広がりについて考察する。	○	○		○	
			・民主主義の発展について理解するとともに，各国の政治体制について諸資料を利用して調査する。	○	○	○	○	
		④日本国憲法の基本原理 ⑤平和主義と自衛隊 ⑥基本的人権の保障と新しい人権	・日本国憲法の成立過程を把握しながら，日本国憲法の三大原理について理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査
			・大日本帝国憲法と日本国憲法の違いを考察し，それぞれの憲法の本質について理解する。	○	○		○	
			・天皇の地位と役割について，国民主権と関連させて理解する。	○	○		○	
			・日本国憲法をめぐる論点について関心を高める。	○	○		○	
			・個人の尊厳，自由，平等などの社会的価値について把握しながら，権利相互の関係や人権をめぐる諸課題について理解する。	○	○		○	
			・自由権や社会権，参政権などの基本的人権や新しい人権について理解を深め，その本質を把握する。	○	○		○	
			・人権に関する判例を活用しながら，権利と義務との関係や，「公共の福祉」の概念について理解する。	○	○	○	○	

	民主政治の基本原理と日本国憲法	⑦国会の組織と立法 ⑧内閣の機構と行政 ⑨裁判所の機能と司法制度 ⑩地方自治制度と住民の権利	・国会，内閣，裁判所などの政治機構にふれながら，主権者としての政治に対する関心を高めるとともに，それぞれの役割について理解する。 ・日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について，問題点も含め，幅広い視点から考察する。 ・二院制の意義や法律の制定過程，衆議院の優越など，国会に関する基本的事項について把握しながら，国会の課題についても関心を高める。 ・現代の福祉国家の下では，国家機能が複雑化・大規模化して，行政府の役割が増大したことを理解する。 ・裁判員制度について理解し，報道資料などから国民の司法参加の意義を考察するとともに，刑罰の意義や犯罪被害者の救済，犯罪者の更生について関心を高める。 ・地方自治の本旨を把握しながら，地方分権と住民の権利について理解し，国と地方の関係を考察する。 ・地方財政の現状と地方自治の課題について関心を深め，報道資料などから自分の住んでいる地域の実情を調査する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査
		⑪政党政治と選挙制度 ⑫民主政治における世論の役割	・日本の選挙制度について把握しながら，政党や圧力団体の行動とその意義を理解する。 ・政党政治や選挙，国民の政治意識や政治行動の特徴などを理解しながら，政治への関心を高める。 ・選挙結果や投票率の分析・動向などを，さまざまな情報手段を活用して調査し，主権者としての参政のあり方について考察する。 ・マス・メディアの役割と問題点を理解し，世論の果たす役割が大きいことについて理解する。 ・特定の政治的志向をもたない人々の増大や，政治的無関心の広がりについて考察する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査

2	現代の国際政治と日本	①国際社会と国際法 ②国際連合の組織と役割 ③国際政治の動向 ④国際紛争と難民問題 ⑤軍備管理と軍縮 ⑥日本の外交と国際平和への役割	・国際社会の成立過程を把握しながら，実際には国家間でさまざまな格差があることを理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査
			・国際政治と国内政治の違いや，国際法や国際裁判の意義を理解する。	○	○		○	
			・グローバル化の進展により，国際社会ではＮＧＯや多国籍企業など国家以外の機関や組織が活動していることを理解する。	○	○		○	
			・国際連盟と国際連合の違いを把握しながら，国際連合の役割，国際連合が抱えている課題について理解する。	○	○		○	
			・冷戦終結後の国際社会の動向について把握するとともに，冷戦終結後の世界が冷戦時代と比べてどのように変化したのか理解する。	○	○		○	
			・民族紛争を例に，複雑な国際関係を幅広い視点から考察するとともに，国際社会における文化や宗教の多様性について理解する。	○	○		○	
			・軍縮や国際平和に関する問題について，メディアを利用して調査し，国際平和のために日本が貢献できることについて，多角的な視点で考察する。	○	○	○	○	
	現代経済のしくみと特質	①経済社会の発展 ②経済主体と経済活動 ③市場経済の機能と限界 ④経済成長と景気変動	・資本主義経済の特徴を，社会主義経済の特徴と比較しながら，現代経済の特質について理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査
			・家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのか理解する。	○	○		○	
			・株式会社とはどのようなものか，所有と経営の両面から理解するとともに，企業の社会的責任について関心を高める。	○	○		○	
			・市場の基本である「需要と供給との関係」について，正しく理解する。	○	○		○	
			・独占，寡占状態の市場での消費者に対する影響と，その弊害を排除するための措置について理解する。	○	○		○	
			・国民所得の構成や景気変動，経済成長について，諸資料を利用して，日本と諸外国の現状を比較する。	○	○	○	○	

		⑤物価の動き ⑥金融のしくみとはたらき ⑦財政のしくみとはたらき ⑧日本経済の歩み	・物価の変動要因を理解するとともに，物価の変動が国民経済に及ぼす影響について考察する。 ・金融のしくみや役割，日本銀行の金融政策，金融の自由化などの金融に関する環境の変化を理解する。 ・財政の基本的なしくみや役割，租税の意義について理解しながら，その使途について関心を高める。 ・日本の財政の現状について，報道資料などから調査し，公債残高の膨張が将来に及ぼす影響を考察する。 ・人々の生活が豊かになる一方で，公害などの社会問題が発生したことを認識する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査
		⑨中小企業の地位と役割 ⑩農業の現状と課題 ⑪消費者問題 ⑫高度情報社会の進展と課題	・大企業と中小企業の違いや日本経済において中小企業が果たしている役割について理解する。 ・日本の農業が直面している課題について理解する。 ・消費者問題の現状や消費者運動，さまざまな法制度について，諸資料を利用して調査する。 ・クレジットやローンなどが日常生活で果たしている役割と，多重債務問題について理解する。 ・情報化が政治・経済・国民生活に及ぼす影響や，高度情報社会の課題について理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査

3	現代経済のしくみと特質	⑬労働問題 ⑭社会保障制度の充実 ⑮環境保全と資源・エネルギー問題	・労働基本権と労働三法の基本的内容とその意義を理解する。 ・メディアを利用して，若年層・女性・中高年・障害者・外国人労働者など最近の労働問題をさまざまな視点で調査する。 ・日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに，現在の制度上の問題点と課題について考察する。 ・すべての人が社会に参画するための方法を，諸資料を利用して調査する。 ・化石燃料・原子力発電・新エネルギーのそれぞれの違いとメリット・デメリットを理解する。 ・深刻化している地球的規模の環境問題に関心をもち，どのように乗りこえるべきか考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査
	国民経済と国際経済	①国際経済のしくみ ②国際協調と国際経済機関の役割 ③地域的経済統合 ④グローバル化する経済 ⑤南北問題と日本の役割	・国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。 ・国際収支の基本的な構成を把握しながら，経済摩擦の要因である不均衡が生じる原因について理解する。 ・為替相場のメカニズムについて把握しながら，円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。 ・地域的経済統合やＦＴＡ・ＥＰＡについて関心をもち，諸資料を利用しながら具体的に考察する。 ・グローバリゼーションにともなうヒト，モノ，カネの国際的な移動が，国際経済に与える影響について，関心を高める。 ・先進国と発展途上国の経済格差や新興国の台頭について把握しながら，日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・提出課題 ・定期考査

	現代日本の政治や経済の諸課題・国際社会の政治や経済の諸課題	［選択］ ①少子高齢社会と社会保障 ②地域社会の変貌と住民生活 ③雇用と労働をめぐる問題 ④産業構造の変化と中小企業 ⑤農業と食料問題 ［選択］ ①地球環境と資源・エネルギー問題 ②国際経済格差の是正と国際協力 ③人種・民族問題と地域紛争 ④国際社会における日本の立場と役割	・現代社会の諸課題について，政治と経済との関連に留意しながら，さまざまな角度(視点)から考え，客観的な立場に立って望ましい解決のあり方を考える。 ・第１編・第２編の学習の成果の上に立って，現代社会の諸課題について探究し，さまざまなメディアや聞き取りなどによって調査する。 ・調査結果をもとに，話しあい・発表・レポート・小論文などの言語活動によって自分の意見を表現する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。